

こえに だして よみましょう。

いちようの実 ^み ⑤

みやぎわけんじ
宮沢賢治

そのすこし下^{した}でもうふたりがいました。

「ぼくはいちばんはじめにあんずの王様^{おうさま}のお城^{しろ}をたずねるよ。そしておひめ様^{ひめさま}をさらっていったばけものを退治^{たいじ}するんだ。そんなばけものがきつとどこかにあるね。」

「うん。あるだろう。けれどもあぶないじゃないか。ばけものは大きい^{おお}んだよ。ぼくたちなんか、鼻^{はな}でふきとばされちまうよ。」

「ぼくね、いいもの持^もっているんだよ。だからだいじょうぶさ。見せ^みようか。そら、ね。」

「これおっかさんの髪^{かみ}でこさえた網^{あみ}じゃないの。」
「そうだよ。おっかさんがくだすったんだよ。なにかおそろしいこと^{こと}のあったときはこのなかにかくれるんだって。ぼくね、この網^{あみ}をふところにいれてばけものに行^いってね。もしもし。こんにちは、ぼくをのめますかのめないでしょう。とこういうんだよ。ばけものはおこってすぐのむだろう。」